

医学系研究科 医科学専攻

学位プログラム： 医学倫理・研究ガバナンス

授与する学位： 修士（公衆衛生学）

教育目標

大阪大学および医学系研究科の教育目標を受けて、学位プログラム「医学倫理・研究ガバナンスプログラム」では以下のとおり教育目標を定めています。

医学倫理・研究ガバナンスとは、医学研究を中心に、よりよい研究のあり方を検討し、実践する学問です。急速に発展する医学・医療が社会と調和の取れた形で進展するためには、医学倫理・研究ガバナンスに対する取り組みが不可欠です。本プログラムでは、医学倫理・研究ガバナンスの歴史と現代の課題について、理論・原則と研究現場における実践を学びます。

21世紀に入り、国内はもとより世界的に複雑化する健康医療問題の解決のためには、従来の健康・医療に関する知識・技能のみで対応することは困難であり、疫学、社会科学、環境科学、経済・経営学、法律学、倫理学、政策学など多面的かつ広い視点からアプローチする必要があります。そのため、健康、医療の諸問題に柔軟に対処できる知識、技能、倫理観、デザイン力、コミュニケーション力、国際性、そしてそれらに裏づけられた研究能力の涵養が求められています。

履修対象は、医師だけでなく、歯科医師、薬剤師、保健師、看護師、栄養士、理学・作業療法士、検査技師、ジャーナリスト、自然科学、人文社会科学等の幅広い範囲の職種や学士の人々になります。

学位プログラム「医学倫理・研究ガバナンス」では、医学系研究科の教育目標を受けて、よりよい研究のあり方を考え、人類の健康・福祉に貢献するという志のもとに、自立して研究活動や実践活動を行うために必要な知識、技能とその基礎となる豊かな学識を広い視野に立って養い、人類の健康・福祉に貢献できる高度な倫理観と、深い教養に裏づけられた創造性豊かな人材の育成をめざします。

そのため、医学倫理と研究ガバナンスの専門的・実践的知識を身に着けた医学専門家および医学倫理・研究ガバナンスの専門家となれる人材の輩出を教育目標としています。

○最先端かつ高度な専門性と深い学識

- ・医学倫理・研究ガバナンスの研究者として高度な専門性と深い学識を有する人材。
- ・医学倫理・研究ガバナンスに関する高度な専門知識と深い学識を身に着けた上で、医学研究者、医療者、企業人などの専門職として活躍する人材。

○高度な教養

- ・最先端の医学・医療・生命科学の推進、及び、人類の健康福祉に貢献できる深い教養と、高度な倫理観を兼ね備えた人材。

○**高度な国際性**

- ・国際的な視野を持ち、世界の研究コミュニティをリードする人材

○**高度なデザイン力**

- ・世界で起こる医学や医療、生命科学を取り巻く多様な領域の倫理的・社会的課題を発見し、医学倫理および研究ガバナンスの知識と方法論によりアプローチし、解決できる人材。

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

大阪大学および医学系研究科のディプロマ・ポリシー（学習目標を含む）のもとに、学位プログラム「医学倫理・研究ガバナンス」では以下のとおりディプロマ・ポリシーを定めています。

学位プログラム「医学倫理・研究ガバナンス」では、教育目標に定める人材を育成するため、2年以上在学して32単位修得し、必要な研究指導を受けた上で、修士論文審査及び試験に合格し、次のとおり医学研究に必要な高度な倫理観と、優れた知識・能力、国際性を身につけている学生に修士（公衆衛生学）の学位を授与します。

○最先端かつ高度な専門性と深い学識

- ・最先端の医学・医療の専門知識と医学倫理・研究ガバナンスに関する高度な専門知識・技能を有している。

○高度な教養

- ・医学・医療・生命科学の専門知識に加え、医学倫理・研究ガバナンスの研究に必要な社会医学と関連の人文社会科学の知識を身に着けている。

○高度な国際性

- ・自国および世界各国における医学倫理・研究ガバナンスへの取り組み状況を理解し、グローバルに活躍する能力を身に着けている。

○高度なデザイン力

- ・世界で起こる医学や医療、生命科学を取り巻く多様な領域の倫理的・社会的課題を発見し、医学倫理および研究ガバナンスの知識と方法論によりアプローチし、解決できる能力を身に着けている。
- ・身につけた知識や技術を基に自由に発想し、表現できる能力を身につけている。
- ・自らの成果を、国内外に発信するために必要なコミュニケーション能力を身につけている。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

大阪大学および医学系研究科のカリキュラム・ポリシーのもと、学位プログラム「実験医科学プログラム」では以下のとおりカリキュラム・ポリシーを定めています。

<教育課程編成の考え方>

学位プログラム「医学倫理・研究ガバナンスプログラム」では、医学・生命科学・医療に関する授業科目、医学倫理・研究ガバナンスに関する授業科目に加えて、医学や医学を取り巻く多様な領域の課題を発見する能力を涵養するための高度教養教育、及びグローバルに活躍する基礎能力を涵養するための国際性涵養教育など、授業科目を体系的に編成し、講義、演習、実習等を適切に組合せた高度な授業と優れた研究指導を行います。

<学修内容及び学修方法>

- ・幅広い医学の基礎知識を身につけるための講義「医科学概論」を必修科目として学修します。
- ・幅広い医学領域の知識を身につけるための講義・演習「医科学特論」を必修科目として学修します。
- ・医学倫理・研究ガバナンスの研究に必要な優れた目的意識と高度な倫理感を身につけることを目的とした講義を必修科目として学修します。
- ・自国と他国の文化や習慣等を理解した上で、グローバルに活躍する能力を身につけるため、アクティブラーニング形式の演習を必修科目として学修します。
- ・医学倫理・研究ガバナンスの多様な領域の課題を発見する能力を身につけるための演習を必修科目として学修します。
- ・医学・医療・生命科学の倫理的・社会的課題を解決する能力を身につけるため、配属された研究室での指導教員による研究指導を必修科目として学修します。
- ・身につけた知識や技術を基に自由に発想し、表現できる能力を身につけるための演習を必修科目として学修します。
- ・自らの成果を、国内外に発信するために必要なコミュニケーション能力を身につけるための演習を必修科目として学修します。

<学修成果の評価方法>

- ・学修の成果については、シラバスに記載された学習目標を試験、レポートにより、その達成度を評価します。
- ・修士学位論文の審査については、論文内容、研究発表能力、質疑応答能力を、公正且つ厳格に評価します。評価します。

学位プログラムにおけるカリキュラムマップ（修士課程 医学倫理・研究ガバナンスプログラム）

	最先端専門知識と高度な教養	高度な国際性	高度なデザイン	1年				2年			
				春学期	夏学期	秋学期	冬学期	春学期	夏学期	秋学期	冬学期
最先端の医学・医療の専門知識と医学倫理・研究ガバナンスに関する高度な専門知識・技能を有している。	○			医科学概論Ⅰ,Ⅱ	疫学各論 国際感染症学 死因診断学総論 スポーツ健康医科学 医療安全・クオリティマネジメント学総論	医学統計学各論	人体系統解剖学実習				
				疫学総論 法医学概論 死因究明学	医学統計学 環境健康リスク論						
医学・医療・生命科学の専門知識に加え、医学倫理・研究ガバナンスの研究に必要な社会医学と関連の人文社会科学の知識を身に着けている。	○	○		医療・法・裁判Ⅰ	医療倫理概論 医学研究倫理総論	医療・法・裁判Ⅱ 法臨床医学 死因診断学各論Ⅱ	死後画像診断学各論 医療経済産業政策学各論 精神・身体健康増進医学各論				
					死因診断学各論Ⅰ 死後画像診断学総論 経済学・経営学の基礎理論 医療経済産業政策学総論 国際健康政策学						
				高度教養教育科目							
世界で起こる医学や医療、生命科学の多様な領域の倫理的・社会的課題を世界的な視野を持ちつつ発見し、医学倫理および研究ガバナンスの知識と方法論によりアプローチし、解決できる能力を身に着けている。	○	○	○	医学倫理・研究ガバナンスセミナーⅠ		医学倫理・研究ガバナンスセミナーⅡ		医学研究倫理各論 医療政策学・医学政策学		医学倫理・研究ガバナンスセミナーⅢ	医学倫理・研究ガバナンスセミナーⅣ
身につけた知識や技術を基に自由に発想し、表現できる能力を身につけている。			○	疫学フィールド実習 環境健康フィールド実習	疫学フィールド実習 環境健康フィールド実習		疫学フィールド実習 環境健康フィールド実習				
自らの成果を、国内外に発信するために必要なコミュニケーション能力を身につけている。			○		ライフサイエンスの倫理と公共政策学						
自国および世界各国における医学倫理・研究ガバナンスへの取り組み状況を理解し、グローバルに活躍する能力を身に着けている。		○	○				グローバルヘルス学総論				

- 必修科目
- 選択必修科目
- 高度教養教育科目
- 高度国際性涵養教育科目